

ことば村・ことばのサロン

■2023年3月のことばのサロン

▼ことばのサロン

「ウクライナのことばと暮らし・続」

- 2023年3月25日（土）午後4時—5時
- Zoomによるオンライン開催・対談
- 話題提供：ドロシナ・アナスタシーヤさん（ウクライナ留学生）
- 司会・対談：井上逸兵（ことば村村長・慶應義塾大学）
- 参加：24名

対談要旨

大切なウクライナ語「パン」

司会：今日は2月のことばのサロン続編で、ウクライナからの留学生ドロシナ・アナスタシーヤさん、愛称ナスチャさんにウクライナのことばと暮らしについてお話を伺います。あらためてご紹介したいのですが、ナスチャさんはいつから留学されたのですか。

ナスチャ：2022年6月から法政大学に留学しています。本当は4月の予定でしたがロシアの侵略のために遅れました。

司会：戦争が始まってから日本にいらっしゃった。当時も今も心配なことがたくさんおありだと思います。日本は歴史的な背景もあって、西側諸国と同じようには支援ができませんが、政府も国民も、私個人もウクライナを応援する気持ちは強くあります。

ナスチャ：日本の皆さんの応援には心から感謝しています。3月21日に岸田総理大臣がキーウにお越しになり、ウクライナへのサポートの証だと、みんなとても喜んでいました。元気ができました。

司会：ことば村は政治的な話とか、紛争そのものについて触れるのは適当ではありませんが、今日は、現状を無視できないこともあるかと思います。ナスチャさんは気楽なお気持ちでウクライナ語、ウクライナ文化についてお話し下さい。

ウクライナ語とロシア語

司会：前回の2月サロンの時にウクライナを表わすことばは「パン」だとおっしゃっていましたね。私にはうまく発音できないのですが、カタカナ表記で「パリヤニッツァ」。これには小麦の豊かなウクライナを象徴する意味と、ロシア人には発音できないための識別の

意味があるとおっしゃっていましたね。2022年に実際にあったそうですね。

ナスチャ: そうです。私の身近にもこの発音によってロシアのスパイと判明した例がありました。ウクライナ人は日常ロシア語を使用していても発音できますが、ロシア人にはできないのです。

司会: なるほど。ロシア語には旧ソ連の共通語という側面があったと思いますが、ロシア侵攻後、ナスチャさんから見て、ウクライナ人のロシア語への感情はどんなものでしょうか。

ナスチャ: 旧ソ連時代に人生の大半を過ごした世代の共通語はロシア語ですが、ウクライナの独立以降に育った人の多くは、母国語はウクライナ語だと思っています。

ロシア語とウクライナ語は同じ東スラブ言語ですから似ていますし、ロシア語に近いと一般的に思われがちですが、ウクライナ語に一番近いのはベラルーシ語、それからポーランドやチェコの言語です。ロシア語は似ている言語のトップ10には入りますが。

ウクライナ語とロシア語は発音や単語、文法も例えばロシア語は格変化が6つ、ウクライナ語はラテン語の影響から7つなど、違うところがたくさんあります。今はウクライナ語がロシア語と同じと言われると、辛いですね。今回の侵略の原因は経済だけではありません、ことばと文化がその原因のひとつです。

ロシア語・文化至上のプロパガンダからウクライナ語を取り戻す

ナスチャ: 侵略前にプーチンはスピーチの中で、ウクライナ人というものは存在せず、ただ正しくないロシア人がいるのだと言いました。それは違います。ウクライナ文化・言語が存在しているかぎりウクライナ人はちゃんと存在しています。私もその証です。

司会: プーチンの演説もロシア語・文化がまっとうで、ウクライナ語・文化がまっとうじゃないという一種のプロパガンダですね。

ナスチャ: ロシア帝国の時代からロシア文化が最上であるというプロパガンダがありました。ロシアは文化や言語の素晴らしさを宣伝しますが、でも、それぞれの文化にはそれぞれの素晴らしさがあります。

司会: なるほど。歴史的にそのプロパガンダが続いてきていたのですね。

ナスチャ: はい。共和国が独立した今でもロシアは言語や文化が全然ちがうカザフスタンやグルジアなども文化的に支配しようとしています。

司会: 侵略が始まって以来、ロシア語を使わずウクライナ語を話そうという動きが大きくなったということはありますか。

ナスチャ: そうです。今はウクライナ語を使おうという動きになっています。ロシア帝国から旧ソ連時代まで、教育や出版、会話にいたるまでウクライナ語禁止令が130回以上出されました。ソ連時代、家庭ではウクライナ語を使う人もいましたし、学校でもひとつくらいウクライナ語のクラスがありました。しかし教育を受けるためには必ずロシア語を学ばなければならない。特に大学はロシア語だけでした。それは教育、考え方に損害を与えたと思います。

キーウでウクライナ語を使うと教育の無い農民のような扱いで、ロシア語は教育を受けた人というステータスの高いシンボルだったのです。ロシアの笑い話では必ずロシア人は頭が良くて勝つ、他の共和国人は発音がおかしいのろまの田舎者、というイメージでした。今でもロシア国内のニュースやユーチューブではそのイメージの洗脳があると思います。

司会：ゼレンスキー大統領は、芸人時代はロシア語で、今はウクライナ語で発信していますね。もともとはロシア語が母語だったとウィキペディアにはありますが。

ナスチャ：はい。大統領を目指してからウクライナ語教育を受けて1年できれいなウクライナ語で話すようになりました。ニュースや掲示板やスピーチもウクライナ語ですから、身の回りにウクライナ語が溢れています。書類もウクライナ語で書きます。マスターすることができないはずがありません。2014年尊厳の革命が起こった時の親ロシア政府の大統領だったヤヌコーヴィチはウクライナ語が下手で、その面でもウクライナ人にとっては嫌な大統領でしたね。

司会：文字はキリル文字ですね。

ナスチャ：はい。しかしロシア語には無い文字もいくつかあります。キリル文字を使っている国それぞれ、独自の文字があったり、文字の音が違っていたりするのです。見た目には同じに見えますが実際は違います。

親ロシア政府時代のウクライナ語

司会：日本にあてはめると、母語で高等教育を受けられるのはあたりまえですが、それはとても幸せなことなのですね。ウクライナの親ロシア時代は言語・文化へのメンタルな攻撃があったのですね。

ナスチャ：はい。ウクライナ語には科学的用語が無いから教育に使えない、と。そんなことはありません。ちゃんとあります。

また、昔は、ウクライナ語は今よりもっとロシア語から遠かったのですが、ソ連時代の親ロシア政府がロシア語に近づけようと、言語学者に辞書を作らせた。ウクライナ語の語彙の内、類義がある場合はロシア語に近い意味だけを採用した辞書を作ったのです。そのほかの類義語は方言だとして標準語に入れない。そういう人工的な過程で、ウクライナ語はそれ以前よりロシア語に近くなりました。

昔の語義を探す試み

司会：方言として消された類義の中に、大切な意味があったかもしれないということですね。

ナスチャ：そうです。しばらく前から、昔の本などを手がかりにウクライナ語の昔の類義を探す試みがされるようになりました。5年くらい前からその活動が強くなって、2022年2月24日ロシアの侵攻の後はその動きはますます高まっています。ことば探しをする人が増えているのです。

司会：文化的にとっても大切な作業ですね。科学用語に関しては、日本語はカタカナことばに

したわけですが、それまでのことばの中にいいことばがあったのかもしれないですね。あるいは、明治時代に新しい漢語をたくさん作った。ロシア語とウクライナ語の葛藤のようなことが歴史的にあったわけですね。昔のことばを探す試みは侵略以降、よけいに感情的にも国民的な運動になっているのでしょうね。

宗教～街の話題で

司会：違う話題ですが、ウクライナのクリスマスは二回あるのですよね。

ナスチャ：今でも正式には1月7日と12月25日ですね。今はロシア正教から離れる動きが高まって12月25日のみにしたほうがいいという人もいますが。カレンダーの違いですよ。

司会：旧ソ連時代は1月7日だけでしたか？

ナスチャ：その時代は宗教禁止でしたから、キーウルス時代からの大聖堂や修道院などは博物館になったりしていました。今は宗教的施設にもどりましたが。旧ソ連時代の一番のお祭りはお正月でした。お正月の木を飾って子供達はプレゼントをもらいました。

正教はギリシャとウクライナのキーウ、当時のキーウルスの首都に由来します。モスクワも無い時代です。ロシアという国が出来て政治力を持つようになったためにキーウから正教のトップがモスクワに移るようになり、ロシア正教になったのです。でも、2018年以來、ウクライナ正教は独立して、ロシア正教と違うと考えられるようになってきています。

司会：もうひとつ素朴な話題ですが、街にある看板はロシア語からウクライナ語になったのですか。

ナスチャ：看板は以前からウクライナ語が多かったですね。ロシア語もありましたが。私の想像ですが、外国観光客に向けて、ウクライナ語が禁止されていないよ、というイメージ作りだったかなと。今、大半の看板はウクライナ語か英語ですね。

そして今

司会：日本に関心を持たれたきっかけは？

ナスチャ：小さい頃、日本昔話の本を自分で選んで買ってもらって。日本への思いが始まりました。小学校の頃にTVで放映されたアニメのセーラームーンが大好きでした。クラス中で人気がありました。ポケモンゲームも。ウクライナ日本センターの日本語教室や文化講座に参加して、大学はキーウ国立言語大学日本語専攻に進みました。

司会：そして今に至るわけですね。ウクライナ侵略が続く中、日本のメディアでは昔日本が受けたシベリア抑留の歴史などが語られないのは個人的に不思議です。歴史をどう評価するかということですが。そういうことも含めて、ウクライナを応援しています。

ナスチャ：ウクライナが生き残るには勝つしかありません。そうでないとブチャやヘルソン、マリウポリで起きたことが全土で起こります。戦いをあきらめると私たちの存在そのものが終わるのです。ですからそれぞれが自分の分野で戦っています。

司会：これからナスチャさんにはウクライナと日本の架け橋になっていただきたいですね。

ナスチャ：ウクライナ人に日本文化を伝える仕事がしたいです。日本の皆さまにはウクライナ文化を伝えたいです。違う文化ではありますが、ウクライナと日本の文化には自然を大切にするなどの共通性もあります。ウクライナの詩人タラス・シェフチェンコは理想的なウクライナの生き方として「農家の家のそばの桜のある庭」という詩を書きました。私たちには桜の花と共に生きる共通点があります。

司会：今日はロシア語に対する感情など非常に興味深いお話を聞くことができました。ありがとうございました。

ナスチャ：ウクライナ、ウクライナ文化に興味を持って頂き、心から感謝申し上げます。

以上
文責・事務局